

令和8年1月8日

国土交通省 中国地方整備局長  
杉中 洋一 殿

中国地方ダム等管理フォローアップ委員会  
委員長

関根雅彦

## 志津見ダム定期報告書の総括について

中国地方ダム等管理フォローアップ委員会は令和8年1月8日に志津見ダムに関する定期報告の審議を行い、下記11名の意見により本フォローアップ委員会としての総括をとりまとめたので提出する。

## 記

(敬称略 五十音順)

氏名	役職	専門分野等
井上 たくや 卓也	広島大学大学院 先進理工系科学研究科 准教授	河川工学
清家 やすし 泰	島根大学 研究・学術情報本部 エスチュアリー研究センター 客員教授	水質
関根 まさひこ 雅彦	山口大学 名誉教授	水質
田原 ひろし 博	日本野鳥の会 島根県支部 副支部長	鳥類
鶴崎 のぶお 展巨	鳥取大学 名誉教授	動物
中田 かずよし 和義	岡山大学学術研究院 環境生命自然科学学域 教授	魚類
三輪 ひろし 浩	鳥取大学学術研究院 工学系部門 教授	河川工学
矢島 ひろし 啓	島根大学 研究・学術情報本部 エスチュアリー研究センター 教授	水環境
山田 ともこ 知子	比治山大学 現代文化学部 教授	社会環境
吉田 けいすけ 圭介	岡山大学学術研究院 環境生命自然科学学域 准教授	河川工学
渡邊 そのこ 園子	広島大学大学院 IDEC 国際連携機構 先進理工系科学研究科 准教授	植物

- 「第36回中国地方ダム等管理フォローアップ委員会」において、「志津見ダム定期報告書」の審議を行った。
- 審議は、「防災操作、利水補給、堆砂、水質、生物、水源地域動態」の6項目について、令和2年度から令和6年度までの期間を主な対象として行った。

各項目に関する審議結果は以下のとおりである。

1. 「防災操作」  
評価期間である令和2年度から令和6年度の間ダム洪水量(180m<sup>3</sup>/s)を超えるような洪水が2回発生したが、必要なダム操作により所期の機能を発揮している。  
今後、気候変動の影響により水害の激甚化・頻発化が懸念される。引き続き適切な防災操作を行うと共に、ダムが持つ治水上の効果を最大限発揮できるよう貯水容量の有効活用に取り組まれない。
2. 「利水補給」  
所期の機能を発揮し、受益地に貢献している。今後も貯留水を適切に管理・運用し、受益地への利水補給を行われたい。
3. 「堆砂」  
貯水池内の堆砂量は堆砂容量の0.075%であり、管理上の問題は生じていない。適切な方法により測量等を継続して実施し、洪水調節容量等への影響に留意しながら堆砂状況の把握に努められたい。  
加えて、近年堆砂量が増加していないことから、ダム上流域の状況および貯水池への流入土砂の実態の把握に努められたい。
4. 「水質」  
利水上の問題は生じてはいないが、アオコの発生や下層の貧酸素化に伴うマンガン濃度の上昇傾向が見られる。このため、ダムの管理・運用に必要な水質や底質の調査を継続し、水質の問題について、必要に応じて対策を検討されたい。  
特に、アオコの発生や淡水赤潮といった富栄養化現象については、巡視等の日常的な維持管理や藻類増殖時のプランクトン分析等による資料の蓄積を図るとともに、その発生メカニズムを検討し、対策の必要性を検討されたい。  
また、マンガンの溶出現象については取水範囲内での濃度上昇の傾向を把握出来るような調査を実施されたい。  
加えて、水質保全対策の選択取水設備については運用を支援するシステムを導入した。このため、稼働後の資料蓄積を行い効果の検証を行うとともに、効率的な運用方法についても検討されたい。
5. 「生物」  
生物の生息・生育状況に大きな変化は確認されていないが、今後も調査を継続し生物の生息・生育状況と周辺環境の把握に努められたい。  
なお、効果が明確に把握出来ていない環境保全対策の実施箇所については、現状の評価に加えて、評価上不足する資料を蓄積した上で関係機関との協議等を通じて今後の取扱を検討されたい。  
また、下流河川環境改善のためのフラッシュ放流は、関係機関と協議しながら、実施スキームや効果確認方法を検討し、今後の取扱を検討されたい。
6. 「水源地域動態」  
志津見ダムが果たす治水や利水の役割について、その貢献状況が地域や受益地に広く理解されるように継続的かつ効果的なPR活動やサポートに取り組まれたい。  
また、地域が志津見ダムの地域資源としての価値を評価し、関係人口や交流人口の増加を目指している。このため、河川空間のオープン化に関する取組の推進やダム管理者が有する知見等を地域の人々へ提案すること等を通じて、ダムを活用した地域活性化活動への効果的な貢献を果たされたい。

以上